

1. 家庭科における学び

何気なく過ごしている生活の中に家庭科の学びは存在する。ただ、その生活について立ち止まって考えることは少ないだろう。しかしその何気なく過ごしている生活に目を向けた時、子どもは「なぜこうするといいのだろう」「もっといい方法があるのではないか」「もっとよくしたい」などの思いをもち、そこから解決したい課題を見つけていく。そして、その課題解決に向けて、既存の知識や技能、生活経験を基に解決方法を考え、実践や評価、改善を重ねていく。このように自分なりの見方や考え方を働かせながら課題解決に向かって試行錯誤する中で、子どもは、他者の思いや見方や考え方、実践における結果などにふれることで様々な価値観と出会い、自分なりの思いを広げたり深めたりしていく。こうした課題解決の過程を通して何気なく過ごしている生活を見つめ直すことで、自分の見方や考え方を広げ、考えを再構築したり最適解や納得解を見つけたりしていく。このような学びをくり返していくことは、その時々々の状況を考え意思決定する姿や、家庭や地域などにおいてよりよい生活を営もうと工夫する姿につながっていくだろう。

2. 本校家庭科部が考える『その子らしく学ぶ』

子どもは、日常生活の中の事象に目を向けた時、既存の知識や技能、これまでの生活経験を基に自分なりにその事象に関わろうとし、実際にやってみるために教科書やインターネットを活用して調べたり計画を立てたりする。しかし、いざ自分で行ってみると、想定外のことが起きて疑問が生じたりこれまでもっていなかった新しい視点に出合ったりして戸惑うこともあるだろう。そのようなとき「もっと効率よくしたい」「おいしく作りたい」などの自分の思いを実現するために「どうしたら短い時間で作ることができるのか」や「どうゆでたら好みの柔らかさになるんだろう」といったその子なりの課題を設定し、解決方法を考えて追究していく。

課題解決に向けて試行錯誤する中で、自分の思いや考えに向き合うだけでなく、他者と関わることで様々な価値観と出会うこともある。例えば「快適に眠れるパジャマにはどんな素材がいいんだろう」という課題をもった上で、冬のパジャマには通気性は不要だと考えている子どもが、多少の通気性があることで気持ちよく眠ることができるという友達の考えに出会うと「たしかに冬も汗をかくから通気性が少しは必要かもしれない」とこれまでの経験も踏まえ、改めて課題について考える。そして、それを新たな視点として今後のパジャマ選びに取り入れていくこともできる。このように自分にはなかった考えや価値観に出会うことは、自分自身の生活を見つめ直すきっかけとなり、新たな課題を追究したい思いにもつながっていく。

様々な価値観に出会うきっかけは他者との関わりだけではない。子どもが日常生活では立ち止まりにくい事象について考えること自体が、様々な価値観に出会うきっかけとなる。例えば、当たり前にあるものとして着ている服に目を向け、快適に過ごすということを考えていくと、普段身近にある布製品がどんな特長をもった素材で作られているかに気付く。そして、そこから生産者側の努力や工夫まで視野を広げ、布製品に対する見方や考え方を広げたり深めたりしていく。子どもは、これまでの見方や考え方だけでなく、改めて身近な事象を見つめ直したことで得た見方や考え方を、その後の家庭生活における判断を行う際に活用できるようになるだろう。

こうして、他者と関わったり様々な事象に目を向けて知識や技能を得たりする中で出合った価値観と自分の価値観とを照らし合わせると、自分なりの思いを広げたり深めたりすることができる。また、それぞれが自分の思いを基にした課題を設定してその解決に向けて試行錯誤することで、身の回りの事象を含めた普段の生活を見つめ直していく。さらに、家庭生活に対する見方や考え方も広げていく。このように、自分の日常生活に還る経験を通して得たものは、その子自身を形成する一部となっていくだろう。これが、家庭科部の考える『その子らしく学ぶ』である。

3. 『その子らしく学ぶ』を支える環境設定

子ども一人一人が自分なりの課題をもち、その課題の解決に向かっていくことができるよう、

- ・実生活ではあまり立ち止まることがない事象との出会いの場を取り入れた題材の設定をする
- ・思いをもつことができるような材との出会いの場と解決に向けて見通しをもつことができる場の設定をする
- ・課題解決に向けた試行錯誤の場で、実践的・体験的な活動とそれらを評価、改善する時間の設定をする
- ・様々な価値観と出合えるように他者との対話場面の設定をする
- ・題材内に実感を伴って学んだことを実践する場の設定をする